

三重県史

資料編

近世

3

(下)

目次

口 絵

序

凡 例

総合解説・史料所蔵者等一覧

第一章 神宮領

第一節 宇治・山田

第二節 周辺農村

第三節 直轄領

第二章 鳥羽藩

第一節 本藩領

第二節 勢州領

第三章 紀州藩……………865

第一節 本藩・新宮領……………866

第二節 勢州領……………1069

資料提供者及び協力者……………1291

あとがき……………1293

口絵目次

1	内宮絵図	10	度会郡六竈文書（史料452）
2	伊勢宮川之内外社領の図	11	旧越賀村郷倉
3	熊中奇観（尾鷲付近）	12	朝熊町有文書と文書蔵
4	漁具（シビツキ）	13	紺屋関係文書
5	御師台所図会	14	行き倒れ関係文書（史料359・360参照）
6	鳥羽御用酒造所看板	15	除痘館免状（史料514）
7	型紙染見本と型紙入り箱	16	鳥見鑑札
8	竈方文書引継式	17	鳥見役笠・旗
9	軽粉道具		

細目次

第一章 神宮領

第一節 宇治・山田

一 支配

- 1 神宮における神仏分離に関する書留……………明和七年七月……………69
- 2 飢饉対策につき山田奉行触……………寛永十九年六月……………70
- 3 宮中・宮山は内宮長官の支配とする旨の山田奉行証文……………正保四年十月……………70
- 4 山田奉行より山田町中焼失の寺地につき達書写……………寛文十年十二月……………71
- 5 山田奉行より寛文大火後の復興につき達書写……………寛文十一年五月……………71
- 6 内宮遷宮に関する幕府下知状……………寛文十一年五月……………72
- 7 放火犯の処分に関する山田奉行通達……………元禄十年七月……………73
- 8 山田奉行の申渡等覚……………元禄十三年正月～五月……………73
- 9 公事訴訟を勧め礼金を取る者に関する申渡……………元禄十五年十一月……………80
- 10 神領内山田羽書通用停止と申触らす者につき山田奉行達……………宝永五年四月……………81
- 11 山田奉行より種々申達……………正徳二年十月……………81

12	金銀出入につき山田奉行申達	寛延元年八月	84
13	山田奉行松田河内守の悪政を訴えた箇条書写	安永三年十月	85
14	欠所地の処理につき山田奉行申渡書写	安永九年三月	107
15	山田羽書新古引替えにつき違書	寛政二年・四年	108
16	神宮家より山田奉行所への公事等手続につき願書	寛政二年十二月	109
17	神宮家の召仕い宗旨改につき覚	寛政四年十月	111
18	出火時の公事訴訟等につき山田奉行申渡	寛政七年正月	112
一一 会合の自治			
19	三方会合諸事評定につき起請文写	寛永十八年九月	114
20	山田三方定	慶安三年閏十月	115
21	神領追放者等に関する宇治会合の触	元禄四年二月	116
22	山田羽書札仕来につき山田三方訴状案	亥十二月	116
23	両会合取扱い方につき山田奉行申渡書写	寛政十年十二月	119
24	宇治会合仕来書	文久三年十一月	120
25	山田三方仕来書	文久三年	132
26	山田三方会合年中行事		148
27	山田三方会合所年中諸入用見積帳	慶応二年四月	179

三 町方の生活

28	内宮各町仕来書上	宝永七年七月	184
29	内宮領間山各町仕来書上	宝永七年七月	191
30	上中之郷町郷内年寄申合写	寛永十九年〜文政十二年	193
31	山田一之木町年寄定書	元文四年正月	222
32	藤社結衆中寄合覚書	享保十三年正月	226
33	尾部坂墓所畠地に起すこと触穢であるかに関する覚	享保十一年六月・八月	230
34	盆中火の用心等に関する触	享保十一年七月	232
35	水害による死者触穢の恐れに関する書状	寛保元年七月	232
36	明和元年山田大火触穢に関する覚	明和元年十二月	233
37	諸事儉約につき山田奉行触	寛政三年十一月	237
38	牛谷の者不埒につき規則に関する会合の触	寛政七年六月	239
39	古市油屋事件につき覚	寛政八年五月〜六月	240
40	大々神楽祝儀牛谷・拜田へ各々下されることにつき覚	寛政九年九月	244
41	白石交換に関する覚	寛政十三年二月	244
42	御木曳初の日取に関する覚	文化二年四月	247
43	相对死防止につき山田奉行より達書	文化十年十二月	248
44	横死者の立札に関する取扱い覚	文政四年六月	249

45	御遷木伐出し費用捻出に関する取扱い覚	文政四年八月	250
46	権任並びに異姓の年寄への申渡	天保七年九月	252

四 御師の活動と生活

47	久保倉右近と佐八掃部權那争論につき幕府下知状	寛文八年四月	253
48	外宮師職三日市帯刀配檀方祓銘につき幕府下知状	寛文十一年十一月	254
49	外宮師職三日市大夫次郎家臣中沢金太夫日記	宝永五年正月～八月	255
50	絶家等の師職の家銘に関する書付	寛政八年五月	293
51	売曆に関する触	文化元年三月	295
52	質入れの旦那取戻しの願書	文化元年九月・十月	295
53	配曆につき山田奉行宛請書	文政十三年八月	297
54	師職が参宮人を古市町等へ案内することを禁ずる触	天保十三年九月	298

五 参宮人に対する規制

55	宮中の定	寛政四年三月	299
56	神楽の願主宮中付近で散錢禁止に関する覚	寛政六年四月	302

六 芸能等

57	勸進能に関する覚	元禄四年四月	302
58	俗盲人稼業・名目金に関する触	安永八年三月	303
59	牛谷・拜田手下節季候に出る者不行儀につき触	安永八年十二月	303

60 出火処罰ながら古市芝居興行続行の嘆願書……………弘化三年閏五月……………304

第二節 周辺農村

一支 配

61 九鬼殿との礼式につき朝熊村鹿海村届書……………寛永十五年十一月……………308

62 他領民持ちの神領田畑山林等買返につき山田奉行違書……………延宝三年五月……………308

63 小越船につき会合より神社村今一色村へ申渡……………天和二年八月……………309

64 鶴松浜新田につき山田奉行条目……………天和二年九月……………310

65 無断で年寄筋目削等不念につき内宮年寄会合違書……………正徳二年七月……………310

66 洪水後拝借願及び波除閉普請願につき大湊惣中記録……………享保十三年・十四年……………311

67 神路山・嶋路山狼狩出人足記録……………宝暦九年十一月……………314

68 宗門帳所持冊数調べにつき楠部村返答書……………天明六年四月……………315

69 山田奉行所寛政改革につき大湊由緒書上の下書……………寛政二年十二月……………316

70 吉田よりの参宮人船につき江戸にて吟味記録……………寛政十年七月……………320

71 宇治山にて夜分の火消人足請負願につき口上書……………享和三年七月……………326

一社 会

(1) 村 掟 等

72 牛馬作・博奕過料につき一字田地下若衆宛定……………延宝八年六月……………327

73	年寄入替につき莊村中連判定	宝永三年二月	327
74	本一色村結衆中議定の覚	宝永四年十二月	328
75	火消人足不勤につき朝熊村五郎右衛門ほか詫び一札	享保七年九月	330
76	牛馬作・盜等につき楠部村定	享保八年六月	331
77	尾崎村多作の過料につき楠部村若衆仲間口上書	享保十八年二月	332
78	借金多困窮につき楠部村年寄簡略申合せ書	元文三年十二月	334
79	出火時人足怠り過料につき一字田村若衆宛定書	明和四年十一月	338
80	諸入用簡略につき中村地下中定	明和六年十一月	340
81	五箇年間儉約につき四郷年寄中定	明和八年五月	342
82	一字田地下儉約の覚	明和八年五月	343
83	火消人足につき楠部村定	天明四年正月	344
84	五箇年間儉約につき中村地下中定	天明四年六月	344
85	年寄筋目につき中村定	文政三年二月	348
86	十箇年儉約につき中村小前一同・年寄熟談申合せ定	天保十一年四月	349
87	朝熊村一臈職引渡シ帳	天保十二年十二月	351
88	朝熊村頭家諸事儉約相定	万延元年十一月	353
89	朝熊村地下七箇年の間儉約仕方帳	慶応元年閏五月	354
90	儉約方につき一字田村地下定	丑十一月	356

	91	正月祝い方につき一字田村儉約定	亥十二月	356
		(2) 村の構造		
	92	楠部村年寄過料銭の割付方につき小前惣代願書	寛政八年八月	357
	93	一銭剃髪結奉公証文	寛政九年正月	360
	94	一字田村番人勤め方定	寛政十二年十一月	361
	95	古市芝居に無銭で入る儀につき朝熊村垣外願書	嘉永二年十月	361
	96	大湊村郷使奉公請状	嘉永七年七月	362
		(3) 事件・諸記録		
	97	朝熊川宇治川落合漁場争いにつき朝熊村一字田村口上書	元和五年十月	363
	98	上二郷と出入り時に下四郷一身同心申合せ法度	寛永八年二月	364
	99	近隣村々との出入りにつき庄村書留	明暦二年、天和三年	364
	100	くり舟造替時出入り済につき庄村・三津村差上げ証文	正徳二年五月	369
	101	嶋路山・郷割金等につき宇治二郷・下四郷出入り証文	寛延四年正月	370
	102	朝熊村盗賊騒動帳	明和三年七月	376
	103	明和三年津村半六一件時朝熊村の追放者赦免願口上書	安永五年三月	389
	104	若君祝儀に追放者赦免につき朝熊村久助・善次郎請書	享和三年八月	389
	105	売薬商人を牛谷番人打擲につき楠部村口上書	天明三年二月	390
106		王孫ヶ池入水体の小児につき楠部村役人口上書	文化十四年六月	391

107	会合所助成金一件記	天保九年十二月	392
108	朝熊村と松下村箕瀬山貸地出入り一件記録	天保十四年十二月	407
	(4) 村の旧記			
109	諸工事覚帳(中村旧記録)	寛永十八年十月	415
110	万感跡帳(庄村旧記録)	寛文元年三月	428
	三 生 業			
111	三宮神宮等につき立石茶屋惣中証文	正保四年十二月	434
112	朝熊村領内にて瓦焼商売仕度につき一札	宝永二年九月	434
113	朝熊村売酒請負につき一札	享保十二年閏正月	435
114	朝熊峠茶屋伴七家跡式出入りにつき返答書	延享元年十一月	435
115	内宮御師職付旅人休息請負につき朝熊峠茶屋一札	天明五年十二月	437
116	楠部村獵師鉄砲所持来歴につき一札	天明七年二月	437
117	大湊船宿洗濯女につき書留	寛政元年・天保十三年	438
118	今一色村甚吉ほか屋根船造作につき奉行所届記録	文化元年八月	441
119	二見茶屋朝熊村等の参宮人宿につき口達	文化九年八月	442
120	大湊造船届書留(抄)	天保十二年~十五年	442
121	立石垢離かき場運上金につき江村茶屋請証文	天保十五年	448
122	朝熊村旅人指宿帳(抄)	安政三年正月	448

123 伊豆船難破後鰻荷物等受取につき沖合船人一人札……………安政五年正月……………453

四 儀式・信仰

124 額取・太夫成振る舞い簡略方につき松下村定……………正徳三年九月……………454

125 中村額取格式覚……………享保十三年九月……………456

126 松下村富士参詣帳扣……………安永四年四月……………462

127 中村御木曳記録……………文政五年、六年……………473

128 中村御遷宮記録……………文政十二年九月……………483

第三節 直轄領

一 支配

129 神領五箇村長官代官支配方、給人持高等につき書留……………元禄十五年四月……………503

130 紀州領米留、馬士が神領米と偽り送まじき旨神宮代官触……………天明三年十二月……………505

131 多賀大社御免勸化の断り相済につき神宮代官通達……………天明七年四月……………505

132 壱軒焼の届出につき神宮代官と応返留……………寛政元年閏六月……………506

133 年貢納所方を給人分も取扱いたき旨神宮代官願書……………寛政五年九月……………508

134 山田奉行所への直訴差止めにつき神宮代官触……………寛政八年五月……………508

135 富興行など禁止につき山田奉行所触……………寛政八年九月……………509

136 内宮十神主未定ゆえ職田年貢の納め方につき廻文……………寛政九年十月……………509

137	神宮領定免ゆえ御救願禁止と年貢皆済日限等書留	寛政十年十二月	510
138	公卿勅使御参向につき諸事書留	享和元年三月	513
139	伊勢国鷹場内神宮順礼野につき田丸鳥見方と応返書留	文化四年十月	517
140	内宮長官死去、二神主佐八長官執印につき書留	文化七年十月	517
141	齋宮村永嶋丈右衛門を祭主家来に召抱えにつき届書	文政十年閏六月	520
142	年貢納所栢統一方につき神領五箇村庄屋中願書	天保三年二月	521
143	紀州領他所米売差留め、神宮領他所売禁等につき口達覚	天保八年九月	522
144	五箇村百姓共奉行所立入無用の旨両宮申渡	天保十四年九月	523
一一社 会			
145	病氣巡礼を丹生大師前へ置き去りにつき駕籠舁呼出状	元禄四年四月	524
146	紀州領下有爾村等神宮土器勤め故諸役免許願につき書留	元禄七年二月	525
147	鳥羽領稲木村との領境争論につき神領竹川村願書	延享二年八月	525
148	被川舟渡場に流死者につき田丸で検死・吟味等届書	宝暦二年七月	529
149	野後里村、村中困窮につき儉約申合せ書	安永四年十二月	529
150	齋宮村覚助と山田町人出入り取計方につき書留	安永八年正月	535
151	將軍薨御鳴物停止触につき諸事引留	天明六年九月〜十月	537
152	不埒の旅人稼ぎ者につき松坂問屋廻文	寛政六年五月	547
153	博奕・若者人寄酒宴差留め、儉約等につき齋宮村村掟	文化十二年八月	548

154	齋宮村きく世古村へ嫁入後出入りにつき田丸大庄屋書状	文政二年十月	549
155	四日市宿刃傷一件上野村の掛合者他参留御免請状	天保六年九月	550
156	野後里村年寄小前惣代ら物人多ゆえ庄屋相手取訴状	天保七年十二月	551
157	女子日傘御免願却下、古来風儀につき神領五箇村請状	天保十三年十月	553
第二章 鳥羽藩			
第一節 本藩領			
一 支配			
(1) 支配と年貢			
158	板倉氏入封につき町在寺社中への掟書の触達	宝永七年六月	559
159	宝永八年の松尾村五人組帳前書	宝永八年正月	560
160	年貢納め方定式につき覚	享保十一年八月	563
161	年貢納入村借金返済につき荒布代金を担保とする証文	寛保二年十月	563
162	鳥羽藩主の兎狩につき様子の覚	宝暦六年三月	564
163	中間等の雇方・給金につき領内各組申入れの取極め	寛政七年三月	565
164	越賀村地下名義の借用証文	寛政七年六月	566
165	村々減免願につき救米願への切替指示の内達	天保七年八月	566

166	鳥羽藩郷中法度四六箇条の条目	天保九年五月	567
167	小林役所入用熨斗調達方につき村々へ依頼の廻状	弘化二年九月	572
168	御用饜節調達につき依頼状	弘化二年九月	572
169	越賀村よりの悪米上納出願の取扱いにつき廻達	弘化二年九月	573
170	亀山宿代助郷につき領内一統助成金仕法の覚	弘化五年四月	574
171	小林役所より借用の御用金につき楯漁での返済一件記録	嘉永元年七月	575
172	鳥羽藩農政事務処理に関する「諸式覚」	嘉永七年正月	580
(2) 身分編制			
173	河内村百姓祖父が托鉢渡世のため剃髪願の口上書	正徳元年二月	586
174	越賀村番太につき村請けとしている事情の一札	宝暦八年	587
175	番非人を町在悪党取締に任ずる旨の廻状	天保七年二月	588
176	越賀組各村配置の番非人書上覚	嘉永三年七月	589
(3) 御用金と先納金			
177	松平氏転封につき先納金返済仕法の証文写	享保十年十一月	590
178	御帰城御用金につき各組村々へ割懸の触達	安永二年三月	591
179	調達金につき領主の節儉を求め大庄屋の意見書	文化四年三月	592
180	勝手向仕送り仕法実施につき触達	文化八年	595
181	御用金割懸方式につき国府村鵜方村出入りの取替証文	文政七年八月	595

182	買納石代を引当てに江戸下調達金御用割当ての廻状	天保六年四月	597
183	鳥羽藩借財につき家老より村々へ協力依頼箇条写	天保七年六月	598
184	領主借財のため日掛講取組趣意につき廻状	天保十三年八月・九月	601
185	御繰上金利息下付につき相談集会の廻状	弘化三年二月	602
186	御参府御用金千両の領内割付につき廻状	弘化三年五月	602
187	日掛銀延長請方につき廻状	弘化四年十月	603
	(4) 藩 専 売		
188	京都奥喜兵衛に領内生海鼠ノ買許可につき触達	正徳六年二月～三月	604
189	海辺村々荒布ノ買差配につき差支有無尋方の廻状	安永二年六月	606
190	海辺村々荒布ノ買につき村々反対一件記録	安永二年六月	607
191	島方天草・荒布買取につき大坂鴻池屋と村々取替議定	文化九年六月	614
192	産物酒の御免と運上樽数調べ方の仰せ出しにつき廻状	天保六年閏七月	615
193	公儀産物煎海鼠につき勢州内に出回る紛敷品注意の内達	天保十四年正月	616
194	鳥羽藩借財のため荒布を引当てとする申入れにつき廻状	嘉永二年六月	618
195	煎海鼠献上漁実施につき浦奉行達書	嘉永五年正月	619
	(5) 詰米と払米		
196	越賀村不漁につき村借の一札	享保十五年四月	620
197	年貢米の鳥羽廻米を廃し郷蔵預とするにつき触達		620

198	郷蔵詰米高に応じた金子調達藩命につき廻状	天保十三年十月	621
199	郷蔵詰米調達金につき国府組内への廻状	天保十三年十月	621
200	迫子組村々納米・買納代の書上	天保十四年十一月	622
201	詰米七五〇俵の払米清算勘定につき廻状	天保十四年四月	623
202	去冬調達金勘定につき囲米払実施の触達	天保十四年四月	624
203	越賀組郷蔵詰米の引充上納金の納期限等につき廻達	弘化二年九月〜十月	624
204	国府組・石鏡組村々に無利息米貸付許可につき廻状	弘化二年十月	627
	(6) 海防と難船		
205	山海不正取調掛設置につき大庄屋への触達	天保六年閏七月	627
206	志嶋村広助ら拾い米一件につき口書並びに村方請書	天保十三年十一月	628
207	異国船警戒につき石鏡組漁船・人足等動員の廻状	弘化三年六月	631
208	津藩家中土鳥羽領内海岸見分につき触達写	弘化四年七月	634
209	庄屋大庄屋等苗字帯刀の者へ軍事訓練を命じる口達記録	安政六年正月	636
	一 社 会		
	(1) 村政と村況		
210	惣百姓に宛てた破船の際の取扱い等諸事取極めの目録	宝永七年四月	638
211	越賀村預けの御座村諸上納・役人交代につき覚	延享四年十一月	639
212	御座村の越賀村預け御免の願書	寛延四年四月	640

213	所持地売買の際の越賀村地下に対する手続の掟書	寛延四年三月	640
214	越賀村年内諸行事・上納物の定式記録	天明四年三月	641
215	所持地悉皆売却につき鶴方村百姓の本役さし地書入一札	文化十年十一月	651
216	天保三年河内村の地下掟	天保三年二月	651
217	長島藩領民による神明浦地内新田開発につき願書	天保九年八月	652
218	大庄屋交代につき組名を迫子組から越賀組へ変更の触達	弘化二年三月	655
219	盗人を流しものにする規定を定めた松尾村の地下掟	文久元年八月	655
	(2) 騒動と争論		
220	河内村・舟津村間の山論につき示談書	正保五年二月	655
221	河内村・堅神村間の山論出入りにつき和談一札	正保五年二月	656
222	河内村・舟津村間の山論につき河内村の反論書	慶安元年八月	657
223	布施田村と和具村の漁場争論につき口上書	元禄二年三月	659
224	金剛證寺・朝熊村との国境につき河内村の返答書	享保八年五月	660
225	片田村・布施田村間の入相争論につき和談一札	元文二年三月	661
226	越賀村・布施田村の荒布取磯場争い口上と扱い覚	宝曆十年二月	662
227	布施田村・和具村漁場争論の扱い口上書	宝曆十一年五月	662
228	布施田村・和具村累年の漁場争論につき口上書	宝曆十一年五月	663
229	河内村・舟津村間山論につき和談取極扱人からの添証文	安永二年閏三月	667

230	越賀村本役と水呑間紛議の裁許申渡覚	文化六年八月	667
231	石鏡村・浦村の漁場争論につき内済までの一件記録	文政三年正月	668
232	松尾村年貢勘定疑惑での村方騒動に関する一札	天保四年十一月	672
	(3) 戸口と出稼		
233	宗旨改帳仕立て方につき鳥羽藩宗旨改よりの達書	正徳六年六月	673
234	在村の内藤伊賀守牢人の宗旨改証文	享保三年七月	674
235	越賀村より他領出稼者の書上覚	宝暦十一年	675
236	安永九年の英虞郡越賀村人別増減改	安永九年六月	676
237	江戸廻船乗合の水主取調べにつき廻状	天保六年十月	677
238	他所奉公出稼の際の宗旨帳面記載につき指示と雛形	天保七年四月	677
239	志嶋村五人組改の巡村と改諸式雛形につき廻状	天保十一年三月	678
240	志嶋村の人別改帳の雛形と作成要領	天保十四年八月	682
241	本浦村より鳥羽領内町在への出稼人取調帳	天保十四年八月	683
242	本浦村より鳥羽領外への奉公・出稼人取調帳	天保十四年八月	686
243	鳥羽領内村々から他国奉公・作間稼の取調べにつき達書	天保十四年四月	689
244	人別改年につき雛形に従い作成提出すべき旨の達書	弘化三年閏五月	690
245	鳥羽藩宗旨掛より宗旨改帳作成手順につき達書	弘化三年八月	691

三 産 業

(1) 海の恵み

246	正徳年中の浦村楯漁の記録	正徳元年（四年）	692
247	本浦楯漁につき申合せの覚	文化十四年三月	695
248	網御符印仰せ付けのため藩役人出張の廻状	天保六年九月	695
249	他所人請負の安楽島村石灰焼につき領内望人取調べ達書	天保六年十月	695
250	知多郡長尾村船難船につき漁具の入札払実施の廻状	天保七年八月	696
251	本浦村大吉浦の小楯漁につき書付	天保十四年正月	696
252	肥前村々年貢米海難濡れ米につき入札払実施の廻状	弘化二年二月	697
253	鮑突き漁禁止につき取締方の廻達	嘉永五年正月	698
	(2) 商業と流通		
254	買請米未送につき志勢大庄屋への訴訟一件記録	安永八年（九年）	699
255	越賀村で天草買付けの大坂出航常滑船の難船浦証文	文化十三年二月	705
256	大坂へ鯉節商い登につき志嶋村藤三郎船の送り手形	文化十四年九月	708
257	松尾村畑出店運上につき落札者の請書	文政二年正月	708
258	生魚積紀州船阿曾浦で難船につき残荷落札の出買船証文	天保二年十二月	709
259	菅島村・神島村灯明火焚不出精を監視すべき旨の廻状	(天保六年)	710
260	株仲間解散にかかわらず領内船問屋から買請維持の達書	天保十三年正月	711

261	株仲間解散につき江戸積酒荷物取扱い変更の達書	天保十四年五月	711
262	大坂荒物屋との荒布値組相談に村々出張依頼の廻達	弘化二年八月	713
263	大坂商人荒布値組下向につき各村水揚増の依頼廻達	弘化四年八月	713
264	松尾村畑茶屋の落札契約の定書	嘉永六年正月	714

四 生活・文化

(1) 習俗と宗教

265	鵜方村東分地下中の伊雑宮御師交代につき取替証文	宝永元年九月	714
266	鵜方村西分地下中御師職返上につき証文	享保十年七月	715
267	鵜方村内宮御師引受につき取極め覚	宝暦二年三月	716
268	越賀村御師職当分預かりにつき取扱い方の一札	明和四年十二月	717
269	鵜方村西分地下中御師職変更につき講金等返金証文	天明二年二月	717
270	鵜方村東分師職西分師職引請につき勤め方の取替証文	天明四年二月	718
271	松尾村から普濟寺へ留場料支払いの覚	天保十年六月	718
272	岩倉村で行う加茂五箇村の火柱大念仏神事につき請書	弘化二年七月	719
273	朝熊岳役者より受戒登山の案内の廻状	嘉永元年七月	720
274	不漁につき伊雑宮・青峰山へ豊漁祈願参詣の相談の廻状	嘉永元年八月	720
275	伊雑宮遷宮に際し参詣人共の不作法に注意すべき旨廻達	嘉永元年九月	720
276	浦村扶持人医師の母死去につき村内埋葬の礼状	文政元年七月	721

(2) 祭礼と芸能

277	厄年祝・節句祝等万事質素にすべき旨の触達	天保七年正月	722
278	儉約令により恵比寿座等の興行禁止の廻達	天保七年二月	723
279	神祭の節踊り狂言は三番叟に限る旨の廻達	天保七年四月	724
280	鳥羽領での人形芝居興行・手相見等につき廻達	嘉永二年四月(閏四月)	724
	(3) 災害と事件		
281	松尾村百姓倅が肝煎を射殺した事件の口書	寛政十年九月	725
282	小林追放の熊谷小助が志州へ潜伏の有無取調べの廻状	天保四年八月	726
283	鳥羽藩領入り込みのちよんがれを早々送り出すよう触達	天保十四年正月	727
284	医師安藤文訳種痘実施につき希望者は申し出よとの廻達	嘉永三年四月	727
285	山田常明寺町大野屋幸平の博奕船につき廻達	嘉永六年正月	728
286	志嶋村百姓狐憑きにつき甲賀村との差纏れの一札		728
第二節 勢州領			
一支 配			
287	儉約取締仕法書	文化八年十一月	733
288	染商売不勘定のため扶持方帯刀御免お断りの願書	文政元年十一月	737
289	御家老等領内出張時の接遇につき触	天保七年四月	738
290	道筋修繕・宮川用意船等無用につき触	天保七年五月	739

291	近年凶作のため米千俵拝借につき願書	天保八年正月	740
292	近年凶作のため御救米千俵拝借につき願書	天保九年正月	740
293	染商売不景気のため困窮者救済につき願書	天保十年二月	741
294	小俣村本陣休家につき願書	天保十年九月	742
295	年季奉公・船手商売・他国茶摘み等の願出につき触	天保十四年四月	743
296	酒造株分株につき願書	天保十四年五月	743
297	勢州領新規酒造稼の儀につき達書	天保十四年九月	744
298	田丸御鳥見方より鮎漁人名前・人数調べにつき達書	弘化二年九月	745
299	殿様旅用金千両上納につき廻状	弘化三年五月	745
300	凶作につき貸付米・救米の覚	嘉永四年八月	746
301	稲木村高札場普請見分につき願書	嘉永七年	747
302	志勢五箇組炮術稽古人夫割符帳	安政六年十月	747
303	軽粉釜屋仲間渡世難儀につき願書	慶応三年八月	750
304	射和村村方凌来振御書上	明治五年二月	751
一 社 会			
305	伊勢国飯野郡法田村差出し帳(抄)	元禄四年六月	754
306	法田村氏神八王子社建替につき願書	元禄九年九月	758
307	金剛坂村井関下流の村々難儀につき口上書	宝永二年閏四月	759

308	御麻生蘭村庄屋記(抄)……………	宝曆四年ノ十年……………	761
309	大井手大破のため大井手組九箇村不作につき願書……………	享和元年九月……………	785
310	大井手大破のため普請金拝借につき願書……………	享和元年十月……………	786
311	御遷宮山田詰日記(抄)……………	文化六年八月……………	787
312	抜参宮人報謝宿につき届書……………	文政十三年閏三月……………	789
313	早魃につき雨乞・本踊の届書……………	天保三年七月……………	789
314	江戸参河屋伊之助店日稼奉公につき願書……………	天保四年七月……………	789
315	江戸枅屋九右衛門店奉公人病氣につき帰村の届書……………	天保六年三月……………	790
316	御麻生蘭村村定取締判取帳……………	天保六年六月……………	790
317	紀州藩御用材川俣川下りにつき書状……………	天保六年閏七月……………	792
318	大坂枅屋久右衛門店奉公人欠落につき届書……………	天保六年八月……………	793
319	射和上池新築につき規定(抄)……………	天保八年六月……………	793
320	紀州藩御用途備金借用証文……………	天保九年閏四月……………	794
321	庄屋役替りにつき諸帳面送り覚帳……………	天保十年正月……………	795
322	馬之上村博突取締につき一札……………	弘化四年十二月……………	798
323	借金滞納不埒につき射和村へ村替の覚……………	嘉永七年七月……………	799
324	射和村他国奉公人帳……………	慶応三年……………	800
325	大工等諸職人日雇賃銭改正の村定……………	明治三年十月……………	802

三 産 業

(1) 商業一般

326	店定法	元文三年正月	803
327	勢州并江戸店々取計へ一件	寛政三年	806
328	江戸伊勢屋三四郎店年季奉公につき一札	天保二年六月	809
329	山本八郎兵衛家儉約規定帳	嘉永六年正月	810
	(2) 射和軽粉		
330	軽粉釜仲間定(抄)	明和五年九月	811
331	軽粉釜株譲渡につき一札	天明六年十一月	813
332	軽粉釜株売譲証文	享和三年九月	813
333	軽粉商売不如意のため講掛金初会のみ上納につき願書	文化十年十一月	813
334	軽粉箱御用請負につき一札	文化十一年二月	816
335	軽粉釜株売渡証文	文化十三年七月	816
336	軽粉釜相続につき神文	文政七年十二月	817
337	女房離縁につき軽粉製法秘密厳守の一札	文政十二年七月	819
338	相続人不都合のため仲間へ借財引請につき一札	文政十二年七月	819
339	諸道具附軽粉釜株仲間引取につき一札 一	文政十三年七月	821
340	大坂薬種問屋方水銀代金・預け軽粉差引勘定の写	(天保二年、八年)	821

341	軽粉釜株譲受不都合のため日延猶予につき一札	天保四年五月	823
342	女房の釜焚・軽粉払作業従事につき願書	天保五年三月	824
343	式番恵比寿講釜屋連中控(抄)	天保七年正月	825
344	諸道具附軽粉釜株仲間引取につき一札 二	天保七年六月	827
345	軽粉釜仲間規定一札の控	天保十五年十月	827
346	軽粉釜株譲渡につき一札	嘉永五年七月	829
347	三箇年出稼のため仲間へ軽粉釜株預けにつき一札	嘉永六年五月	830
348	中村彦助株得意衆名前控	嘉永六年九月	830
349	軽粉釜焚日数帳	(酉)十二月、戊三月	831
350	類似製品吟味方につき京六軒組宛て書状案	八月	832
(3) 法田村紺屋			
351	松坂・津染紺屋仲間申合せ	享保十年十一月	832
352	江戸染紺屋仲間染値段覚	安永八年四月	835
353	江戸染紺屋仲間申合せ	文化十一年三月	836
(4) 地場産業			
354	柿洪上納帳	文化六年六月	839
355	御麻生菌村作柄の届書	安政五年九月	843
356	御麻生菌村当畑綿作御小検見反畝仕分帳 一	安政五年九月	844

357	御麻生菌村当畑綿作御小検見反畝仕分帳 二	安政五年九月	848
358	勢州村々産物書上	慶応三年八月	852

四 生活・文化

359	御麻生菌村忠蔵一家熊野入湯につき往来一札	文政二年二月	853
360	御麻生菌村忠蔵一家歩行困難につき宿継村送状	文政二年五月	854
361	翠松庵主追悼会記	弘化四年五月	855
362	おさと離縁状	嘉永二年四月	861
363	勢州領抱瘡人調べにつき廻状	嘉永四年二月	861
364	伊馥寺永代相統講仕法帳	嘉永四年	862
365	射和文庫創建により竹川竹斎苗字帯刀御免、年寄格拝命	嘉永七年二月	863
366	小俣村刀鍛冶清蔵刀献上につき差免し	嘉永七年五月	864

第三章 紀州藩

第一節 本藩・新宮領

一 支配

(1) 在役と諸役所

367	紀州藩領の村々への御定目	延宝五年・元禄三年	869
368	牟婁郡奥熊野獵師鉄砲帳	貞享五年四月	875

369	御順見案内覚書	享保元年	879
370	奥熊野夫役遣方の覚	享保八年十一月	884
371	木本より長島まで人足継定	卯十一月	886
372	村々へ申渡す儉約の定	天明三年四月	892
373	紀州藩主領内巡見に伴い新宮での対応を記した覚帳	寛政十一年五月	899
374	尾鷲組秤改書上帳	文化三年十月	903
375	尾鷲組鳶口斧等職分及び鉄砲打ちの者調べ書上帳	文化五年六月	905
376	木本代官所修繕に伴う注文書の写	文化七年正月	907
377	郷役普請手代中村柳平の職務に関する留書	天保十四年正月	909
	(2) 浦組と村々		
378	湊普請に伴い諸廻船への帆別銭取立の書付	宝暦十二年四月	922
379	尾鷲組九鬼浦の異国船への警備手配書上帳	文化六年六月	923
380	船床銀納に関する通知書の控	弘化四年十一月	927
381	古泊浦組御定書	嘉永六年七月	929
	(3) 地 士		
382	庄司一族地主につき書上	正徳四年四月	932
	(4) 身 分		
383	刑人木本へ護送につき経費書上	未五月	934

384	胡乱者召捕えにつき議定	天明八年・嘉永五年	937
一一 社 会			

385	切原村和気村山境争いに関する覚帳	寛永十七年・天和二年	939
386	飢者の書上	延宝三年二月	943
387	宝永地震による損所の書上	宝永五年八月	945
388	火事の対応につき定書	明和三年三月	950
389	大庄屋の勤め方に関する覚	安永三年・元治元年	951
390	南浦病死人書上帳	安永八年十一月	953
391	三ノ村組家数人数ほか改帳	安永十年二月	954
392	百姓一〇三名新宮城下へ入込騒動一件につき日記	天明七年六月	961
393	飢人願のため新宮城下へ罷出につき村役人中調べ書上	天明七年六月	967
394	出稼人帰村日延べ願の書上	享和二年十月	973
395	米騒動の吟味書	享和二年七月	975
396	江戸積み材木に関する取替金催促の願書写	文化四年四月	980
397	尾鷲組手質利息書上帳	天保四年四月	982
398	木本組御貸麦取立書上帳	天保六年五月	983
399	尾鷲組痲瘡人難洪者御救願	天保六年十二月	986
400	野地村大曾根浦早田浦頼母子講議定並びに落札手形	天保九年十一月	989

401	売女体の者徘徊吟味につき書状	嘉永二年五月	991
402	勢州領蔵米払い下げの達書	嘉永三年十一月	992
403	須賀利浦他所からの米の入津間隔開きにつき願書	嘉永三年十月	993
404	八鬼山坂中の追い剥ぎの吟味書	文久元年三月	994
405	吉田善三郎宛借入金に関する書状	六月・九月・十月・十二月	996
406	猥害につき定一ツ取を求める願書	安政二年十二月	999
407	他所稼の者疱瘡病にて死亡届	文化十二年四月	1000
三 産 業			
(1) 材木と炭			
408	売山並びに杉立木売木書付	貞享元年九月	1001
409	樽木加工の日雇稼の出入り一件につき願書	文化八年九月	1007
410	榎木栽培尋ねにつき書上帳	天明七年九月	1009
411	木津店炭納屋船津の升屋嘉兵衛へ売渡しにつき願書	正月	1011
412	炭仕出しにつき拝借金質物書上	慶応元年十二月	1012
(2) 銅 山			
413	楊枝川銅山御用留帳	文化五年六月	1013
414	天瀬銅山一件書付控	文政六年十月	1016

(3) 漁業

415	名吉網漁不漁につき拝借銀を求める願書	宝永元年八月	1018
416	珊瑚珠御用につき尾鷲組海底調査の報告書	寛政十一年六月	1019
417	相賀組引本浦漁師不漁につき拝借銀書上	享和三年正月〜九月	1023
418	鯨船水主羽指等雇いにつき御尋ねの書上	申正月	1027
419	名古屋宮への細魚送り一件につき返答書	卯十二月	1028
420	鯨焚納屋火事につき吟味書	卯五月	1029

(4) 湊と船

421	尾州廻船にて延米借請一件につき願書	寛政二年正月	1030
422	紀州蔵米輸送につき議定書	嘉永七年六月	1032
423	天満浦の洗濯渡世の願書	安政七年閏三月	1033

四 生活・文化

(1) 医業

424	専念寺丸葉売葉に関する書状	文化二年十一月・十二月	1034
425	尾鷲組村々医者名前書上帳	文政十一年・天保九年	1035
426	三ノ村組医師在々取締につき定	弘化四年四月	1036

(2) 信仰・巡礼

427	伊勢講に関する定	天和三年二月	1037
-----	----------	--------	------

428	聖護院門跡通行につき大庄屋へ申渡書	宝曆七年十二月	1038
429	熊野本宮再建に伴う勸化入用銀の徴収に関する書付	寛政三年三月	1039
430	八鬼山坂中にて巡礼者病死一件につき書付	享和三年五月	1043
431	漁事繁栄氏神様御宝木につき願書	天保十五年十月	1046
	(3) 家		
432	養正一代記		1047
433	野地村近蔵所持の家財取調べ書上帳	西六月	1063
	第二節 勢州領		
	一支配		
	(1) 在役と諸役所		
434	小俣蔵より大湊への米出しにつき書状	宝曆四年十月	1072
435	川端蔵設置につき火事等の手当申渡状	宝曆五年十一月	1072
436	山家同心の処遇につき村方よりの返書	安永六年・宝曆二年	1073
437	在方役人任命覚帳		1077
	(2) 鷹場と村々		
438	泊村の鳥見詰所普請に関する留書	宝曆七年十一月	1082
439	鳥見による興行見回り復活願	寛政九年五月	1083

440	鶴・雁・鴨の飛来数書上	……	享和四年	……	1085
441	勢州三領鳥見姓名書	……	天保十年十二月	……	1086
442	鶴飼付や人足賃等村方負担減少願	……	弘化三年六月	……	1090
443	溜池築造・瓦焼の鳥見役への許可願	……	安政五年・六年	……	1091
	(3) 地 士				
444	大内山守護の地士につき覚	……	貞享三年・辰年・文化四年・嘉永六年	……	1092
445	地士への田地給与の書付	……	明和二年正月	……	1094
446	地士への新田給与の書付	……	明和三年四月	……	1096
447	地士格式と地士への取立て願	……	寅正月	……	1098
448	役職仰せ付けられたき旨書状	……	文政七年三月	……	1101
449	地士引越願につき達書	……	十一月・十二月	……	1103
	(4) 身分統制				
450	田丸城におけるささらの役目書上	……	正徳三年十月	……	1103
451	吟味の際の居場所書上	……	寛延四年八月	……	1106
	二 社 会				
	(1) 村の様相				
452	度会郡六竈の証文保存に関する書付	……	寛永二十一年・宝永五年・享保十年	……	1107
453	井生村新井溝築立につき一札	……	万治二年十二月	……	1110

454	糶の寒水漬けにつき届書	元文元年八月・十二月	1111
455	田丸領村々の池・溝敷地書上	寛延元年二月～四月	1112
456	波多瀬村壹山申合せ一札	宝曆十年十月	1117
457	小方竈若者組の掟と相続金定	宝曆十一年・文政九年	1118
458	博労の取締につき達及び願書	文政十年・天保十三年	1120
459	寺社勸化人回在御免願	天保三年四月	1125
460	旧離切人数書上	天保八年十一月	1125
461	遊女等の取締願	天保十三年五月	1126
462	迷娘の搜索願	天保十四年七月	1127
	(2) 町の様相		
463	松坂町の定	正徳三年六月	1127
464	江戸店奉公人に関する一札	安永二年・五年	1132
465	松坂町町家借用証文	安永六年	1133
466	松坂町山神当番の控	安永七年十一月	1134
467	松坂旅籠屋より差宿・株金につき願書	文政十二年天保四年酉年	1137
468	煮売商へも旅籠屋同様余内銭を割付願	天保五年六月	1141
469	松坂風俗記		1142
470	田丸勝田橋の修復願	安永六年九月・十月	1162

(3) 寺社との関わり

471	米ヶ谷村禪竜寺弟子の昇格費用借用証	文化三年正月・九月	1164
472	木造村引接寺の施行に対する誉状	天保八年十月	1165
473	盗まれた弁財天を取戻した旨の届書	天保十一年六月	1165
474	丹生村神主回在等につき達書	天保十五年十月	1166
475	天ヶ瀬村江月寺尊像の注文書	三月	1166
(4) 人々の抵抗			
476	村算用吟味願の顛末書上	元禄五年十月	1167
477	田丸への百姓屯集につき書状及び達書	寛保二年十二月	1167
478	百姓押寄せの廻状につき処置の留書	明和六年正月・二月	1169

(5) 災害

479	出火の節の人足用意申渡	元禄五年四月	1171
480	出水による水尾筋変動の修復一件留書	天明三年四月	1172

三 産業

(1) 材木・炭

481	木屋方由緒書上	正徳五年七月	1175
482	炭買上値段増し願	享保三年十二月	1177
483	岩出・広瀬口前所の請負に関する留書	宝暦五年・安永十年・天保七年	1178

484	松坂材木問屋株につき申渡	明和四年四月	1183
485	佐八より白子への炭積送りにつき書状	四月・七月	1185
	(2) 製茶		
486	製茶中の火事の届書	元禄七年五月	1186
487	茶問屋への申渡	元文二年四月	1187
488	茶積問屋独占願に関する留書	明和八年四月・五月	1188
489	十組解体後の茶取引につき書状	天保十三年二月	1193
490	茶積廻船の不正一件の調書	弘化四年八月〜十月	1194
491	宇治茶の銘柄使用につき返答書	寅七月	1200
	(3) 木綿と関連産物		
492	山村屋の綿等買付売付覚帳	享保十三年七月	1202
493	木綿買問屋の定	明和三年九月	1209
494	紺屋仲間仕方帳	寛政四年九月	1211
495	紺屋名前・瓶数調帳	明治二年十一月	1213
	(4) 水油		
496	他国油問屋株の申渡	明和四年二月	1225
497	松崎浦より菜種積出しにつき申渡	嘉永三年九月	1226
498	水油の出荷と相場につき書状	三月	1227

	(5) 酒造		
499	新規酒造人の取締願	天保九年十一月	1229
500	酒造人書上と無株の者に対する処置の留書	天保十四年・十五年	1230
	(6) 問屋		
501	諸荷物問屋・干鰯問屋株の者書上	明和四年正月	1240
502	御仕入産物酒問屋申付けに関する控	文政二年四月	1241
503	松坂物産問屋目論見書	文政二年閏四月	1245
	(7) 街道の利用		
504	田丸領各組所持船書上	正徳五年二月	1247
505	内宮への調進のための宿次人馬負担につき留書	宝暦二年五月〜九月	1248
506	大石問屋荷物駄賃等につき定及び書状	寛政九年・文政二年	1250
	(8) 藩札の通用		
507	藩札通用のため札座増設につき書状	元禄十六年十一月	1254
508	三領銀札通用及び小売場につき触	享保十六年四月	1255
509	銀札紙納入につき願書	安政二年・申年	1257
	四 生活・文化		
	(1) 医療		
510	阿曾村・大俣村の湯治場につき書状	宝暦二年・三年	1260

511	医師の法橋衣服着用につき届書	明和四年五月	1261
512	家伝の薬売弘め許可につき触	明和四年七月・八月	1261
513	田丸領医師の書上	天保六年五月・六月	1262
514	除痘館免状及び村井俊蔵書状	嘉永三年三月・五月・六月	1263
515	在町医師取締役申付けにつき触	安政五年十月	1264
516	百虫丸送付依頼の書状	七月	1265
	(2) 祭礼・興行		
517	新川井町の芝居小屋掛許可願	宝暦十一年七月	1265
518	川端村相撲興行につき松坂の例問合せ一件留書	寛政元年七月・八月	1267
519	小倭郷白山社礼踊りの次第覚	天保三年八月	1271
520	大内山駒村地狂言の次第書上	安政三年七月	1271
	(3) 教 養		
521	植村佐平二の採薬につき留書	享保十一年・十二年	1272
522	志野流香道相伝書及び入門書	元文二年・宝暦八年・明和五年	1278
523	竹口次兵衛俳諧と俳諧相伝の定	天明元年三月	1280
524	書画類収納の覚	文政十一年八月	1281
525	神風伊勢国当世高名三福対花方見立鏡	文久元年十二月	1289